企業を訪ねて19

株式会社 新越ワークス
「新しい価値を創造し続ける製造工場」

令和5年1月18日(木)、燕市の株式会社 新越ワークス代表取締役社長　山後佑馬氏をお訪ねし、事業の取組みや今後の展開に懸ける思いについて伺いました。

聞き手：古口日出男 副学長（地域産学交流センター長）

◆日頃は本学の教育研究に対しご支援を賜り、謹んでお礼申し上げます。また、本学の大学キャンプ生活において、キャンプグッズの御支援から使い方レクチャーに至るまでご協力いただきましたこと深謝申し上げます。初めに、貴社の理念やものづくりへの思いについてお聞かせいただければと思います。

◇わが社は、「新しい価値を創造し続ける製造工場」という経営理念がひとつとしてあり、3事業で構成しております。スリースノー事業部は創業以来一貫し、食の現場からの要望を製品一個から作り始める業務用品・家庭用品の製造、ユニフレーム事業部は「ユニークな炎(フレーム)を創造する」という理念のもとLPG燃焼器具を中心としたアウトドア器具の開発、エネルギー事業部は、2009年より再生可能エネルギーである木質ペレットを燃料とするストーブの開発を担っています。

これまでは、製品のブランディングには、あまり注力しておらず、製品の使い易さ、耐久性で勝負するものづくりに徹する姿勢で、製造の役割を業界で担ってまいりました。そのため、お客様のニーズは販売店さんを通じてお聞きすることが大半でしたので、本質的なニーズをとらえきれていないこともありました。そこで、最近では一例として、地元のラーメン屋さんにご協力いただき、自社の開発した製品を試してもらい、直接フィードバックをいただく取組みを始めています。その取組みを通じてお客様が業務で困っている事や我々が知らなかった現場の動きを教えてもらう機会をいただいています。また道の駅SORAIRO国上リニューアルの際に、デイキャンプ場を整備する経緯で、運営会社の方から声をかけていただき、自社のアウトドア製品を実際に使用する一般のお客様の声を聞く場も整えることができました。このような本質的なニーズを次の開発につなげていきたいと思っています。

◆環境負荷軽減の事業展開と人材育成について

◇昨今、環境に配慮した暖房機として注目される木質ペレットストーブが自社製品としてありますが、ユーザーからは、単なる暖房機器としてだけではなく、炎を見て楽しめるという観点で評価をいただいております。最近では、カーボンニュートラルの流れにも合致しているとの声もいただいています。また、自社の全製品とその製造工程は、「もったいない」「ムダを減らす」「使い捨てにならない」「長持ちする」という考え方が共通しており、環境負荷の低減を図っています。自社で設計しているので製品の壊れ易いところは把握しており、「ここまで必要か」と思われるような堅牢なつくりの部分がわが社の製品にはあるかと思います。

製品開発では、昨今は近隣の協力企業さんが３次元CADを使用するようになられたので、その活用が進んで、生産性向上につながりつつあります。特に、ペレットストーブの改良・開発では、様々な実験をするのですが、風や気温などは日々変化するので、再現性の高い実験は困難でした。そのような状況において「作っては壊し」を繰り返しながら、開発を手探りで進めてきましたが、非常に大変で、出来上がった物に確信を持てない時もありました。そこで、CADモデルを活用したシミュレーションを導入し、ご縁あってお会いできた大学の先生にご指導いただき、実機の実験との比較検証をしながら進めています。携わっている社員も実機での試行錯誤の苦労を実感しているので、能動的なデジタル（シミュレーション）技術導入になっています。

◆若者に求めることについて

◇私自身32歳ですが、自らの経験として、20代の時に、会長に随行してインドに行く機会があり、あまりの熱気に驚き、外部から刺激を受ける貴重さを感じました。社内にも海外展示会の見学や大学の講座受講等に関する研修制度を整備しています。更に地域の商工会議所の働きかけで、地域企業の同じ立場の社員の交流にも取り組んでおります。他社との交流に参加した社員からは、同じ悩みを抱える共感や他社の挑戦している姿に刺激を受けたとの声をきき、手ごたえを感じています。人によっては、社員が自社以外を知ると、他社が良く見えて、移籍するのではないかという心配も言われたのですが、それを言っていては何も変わらないし、そう言われないような会社作りが必要と思っています。また、FAXを知らない海外の学生の素朴な疑問から、分業体制が特徴の燕地域の生産性向上ツールである燕版共用クラウドSFTCの構築につながっています。このような外部の人と学びあう機会を増やしていき、新しい価値を創造し続ける製造工場でありたいと思います。

◆本日は、大変貴重なお話を伺うことができ、誠にありがとうございました。